

Title	アダム・ スミス論補遺
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.8 (1923. 8) ,p.1341(1)- 1354(14)
JaLC DOI	10.14991/001.19230801-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230801-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

作アラルト・ニ
譯二禮田黑

代表現派轉變

獨逸表現派の奇才エルンスト・トルラーは革命的な情熱と豊かな詩想を持つ天才である。歐洲大戰が齎した惨害を痛感した彼が戦争を呪ひ、軍國主義を否定して、自由と平和と世界同胞の理想に燃ゆる社會革命劇がこの戯曲「轉變」である。表現派の代表戯曲として全歐洲に謳はれたこの傑作は黒田氏の麗筆によつて邦譯され、美装を凝して出た。表現派の藝術を知らんとする者の必讀の好著である。

最新刊
菊神原一價定
裝新裝泰圓一價定
錢十錢十二錢十

獨在
著二禮田黑

蝙蝠日記

新しい革命獨逸の苦悶と憂鬱と希望とをこのやうに生々と描き得た通信は世に現はれてゐない。表面的な政治的事實に捕はれたり、數字を無意味に羅列したり、新しいことでも價値のない事實を仰々しく並べて得意がつてゐるのとは違つて、著者の深刻な社會心理的觀察と流麗な藝術家的取扱ひとを以て紹介された獨逸は驚く生動してゐる。「解放」誌上に連載して潮の如き歡迎を受けた本書は出た。

最新刊
菊スーロク背
裝上雅高頓裝
錢十九圓一價定
銀二十錢十

東京市神田今小路大 振替 東京三三六八 電話 東京九段一三二 大阪南 電話 大阪一七五 大阪南 電話 大阪一七五

三田學會雜誌 第十七卷 第八號

論 說

アダム・スミス論補遺

小 泉 信 三

Adam Smith が Buccleugh 公爵と共に巴里に滞在して、佛蘭西學藝界の諸星と相往來したる時は、宛も Journal de l'Agriculture, du Commerce et des Finances に據る Quesnay 以下フイジオクラアトが、商工業は果して生産的なりや否やの問題に關して反對論者と交へたる筆戰の正に關なりし時なり。

是より先き Quesnay と其最初の門弟 Mirabeau とは、後者の名を以て公にせられたる

Theorie de l'Impôt, 1760 が路易十五世の忌憚に觸れしより、筆を經濟論に絶つこと二年半に及びしが、七年戰役の後、國家の財政を論議するもの漸く多くして、復た當路者の迫害の此に加へらるゝことなきを見て、再び其述作を以て世に見ゆるに至れり。Mirabeau の名を以て公にせられたるも Quesnay の筆に待つ所多かりし Philosophie rurale, ou Economie générale et politique de l'agriculture, réduite à l'ordre immuable des lois physiques et morales, qui assurent la prospérité des Empires. は一七六三年を以て出でたり。然るに Pompadour 夫人に依て Contrôleur Général des finances の地位を得たる L'Averdi が翌年七月十年前 Sechelles に依て發布せられたる、國內に於ける穀物自由交易の法律を更に擴張して外國貿易に及ぼさんとする「穀物王國出入の自由に關する勅令」(Edit sur la liberté de la sortie et de l'entrée des grains dans le royaume) を發布するに及びて、縱令其輸出を佛國船舶に限れるが如き條項のフイジオクラアトをして不滿を感せしめたるものなきにあらずと雖も、猶且つ渠等の主張は茲に始めて實績を挙げたりと謂ふことを得べきなり。是より先き L'Averdi は其施政の便を謀りて、半週刊の經濟官報を設け、四月一日其初號を出さしめたり。此れを後にフイジオクラアト反對

論者が據る城塞となるに至りし Gazette du Commerce 也。L'Averdi は始め Vincent de Gournay の友人にして上官たる Trudaine をして編輯監督の任に當らしめ、Trudaine は Gournay 門下の士と共にフイジオクラアトの寄稿をも求めしを以て、兩者は相提携して經濟的自由の爲めに戰ひたり。然るに Gazette の紙幅は狭小を告げ、幅狭する記事を收録するに足らざりしを以て、政府は記事の理論に關するものに限り掲載するの目的を以て、別に月刊附録を發行するに決し、其題號を Journal de l'Agriculture, du Commerce et des Finances と命じて、一七六五年七月一日其初號を出さしめ、越えて九月 Dupont de Nemour を其專任編輯者たらしめたり。Journal は Quesnay 一派の機關として設けられたるものにあらずること言を俟たずと雖も、編輯者の採擇は自ら其師説を奉ずる者に偏倚し、爲めに Gournay の一派は退きて舊 Gazette に據り、Journal に對する其反對の色彩は漸く明なるに至れり。

Dupont の編輯に係る最初の號は Quesnay の著作中最も重要なものの一なる Le Droit Naturel を掲げたり。然るに同號中 Dupont の Tableau Economique に關する小記事に商人を指して「不生産的階級」la classe stérile と呼べる章句あり。此章句は「不生

産的」と目せられたる階級の激烈なる反對を喚起せり。茲に於て Quesnay は M. H. なる匿名の下に、姑らく身を自説の反對論者の立場に置きて作れる *Mémoire sur les avantages de l'industrie et du commerce et sur la fécondité de la classe prétendue stérile*, par M. H. 同誌十一月號に掲げ、直に *Réponse au Mémoire de M. H.* を草して翌年一月號の誌上に之を駁撃したり。是時より是に對する賛否の論喧しく、Quesnay は猶ほ數次筆を執りて自説の爲めに辯じたり。就中その最も詳細なるを、商業に關し、手工業者の勞働に關する二篇の對話 *Dialogues entre M. H. et M. N.* (*Journal* 一七六六年六月及十一月號所載。Oeuvres Economiques et Philosophiques de F. Quesnay. Publiée avec une introduction et des notes par Auguste Oncken 1888 pp. 446-493, 526-554) とす。反對論者を率ゐたるは Gournay 派の右翼にして、Forbonnais 及び Montaudouin は或は *Journal* 紙上、或は *Gazette du Commerce* 紙上に於て、所謂商工業の輕蔑に抗議したり。Quesnay 等は之に對して生産的階級不生産的階級の區別は商工業は單に素材の變形、又は位置の轉換を行ふに過ぎざるに反して、農業は素材の餘剰を生ずるの差異を指示するに止まりて、何等商工業階級に對する輕蔑の意を寓することなきを辯じたるも、反對

論者は此辯明に満足せず、商工業の當るに有ゆる點に於て農業と同列に置かるべく、農業の決して生産及び富の唯一源泉にあらざることを力説したるなり。フイジオクラアト反對論者は終に政府當局者の加擔するところとなり、Montaudouin は同年九月十三日の官報 *Mercur de France* に一文を掲げ、フイジオクラアトを以て王國の全經濟的秩序を覆へし、高級なる職業諸部門を犠牲にして農業を其首位に置かんとする新説唱導者 (*novateurs*) としたり。Quesnay は直に翌月の *Journal* に *Observations sur le commerce par M. Montaudouin*, insérées dans le *Mercur*, copiées et accompagnées de notes par M. H. を掲げて、「不生産的」は「有害」と同義にあらず、「……一有形科學に於ては不生産的、階級の稱呼は、市民の諸階級が政治組織内に於て占むべき等級を示さんが爲に用ゐられざることを注意せざるべからず。何となれば、其中には君主を始め、生産的階級中に包含すべからざるもの多きを以てなり。物理的區別は尊嚴に係はるとなし。」と辯じたり (*Oeuvres* pp. 521-2)。然れども Dupont は同年末終に是が爲めに其 *Journal* 編輯者の位置を失ひて雑誌は其反對論者の手中に歸し、フイジオクラアトは一七六七年々初以來、新に Abbé Baudouin に依て提供せられたる *Ephémérides du*

Citoyen を其機關となすに至れり (Oncken, Geschichte der politischen Oekonomie 325-331)。

Adam Smith は一七六五年十二月中旬巴里に來りて、此地に滯留すること十月餘に及べり。故に上記フイジオクラートと反對論者との論争は、實に彼れの目前に行はれたるものなり。彼れが新に勞働中生産的なるものと不生産的なるものがあることを思ふに至れるは異しむを須ゐず。たゞ Quesnay 等が特に不生産的階級の語には貶斥の意なきことを縷説したるに拘らず、Adam Smith がフイジオクラートの學説を紹介して其階級別に及び、第一は土地所有者の階級なり。第二は彼等が生産的階級なる特別の稱呼を以て敬重したる耕作者、農業家及び田園勞働者の階級なり。第三は手工業者、製造家及び商人の階級にして彼等(フイジオクラート)は之を不産又は不生産的なる蔑稱を以て貶斥せんと努む (they endeavour to degrade by the humiliating appellation of the barren or unproductive class) と云へるは (Wealth of Nations Cannan edition vol. II pp. 162-3) 不用意の譏を免れ難し。

Adam Smith は前號所載拙稿中に云へる如く、生産的勞働と不生産的勞働との區別を、勞働の結果が具體物として残るや否やの點に求め、農工商業上の勞働を生産的なりとして、君主、文武官、僧侶、法律家、文士、藝人、奴婢の勞働の不生産的なると相對せしめたり (vol. I p. 314)。

既に生産的不生産的の區別を此點に求むる時は、フイジオクラートの純收益論の容認し難きは言を俟たず。故に彼れは(一)手工業者並に商人の階級も年々其自ら消費するだけのものを再生産し、少くも之を維持する資本を保存するを以て、之を不生産的なりと謂ふべからざること、三人の子女を生む夫婦の二人の子女を生む夫婦よりも一層生産的なりと稱することを得べきも、二人の子女も猶ほ舊人口を維持するに足るを以て、之を全然不生産的なりとなすべからざるに同じ。(二)奴婢の勞働と異なり、手工業者、製造者、商人の勞働は、賣買し得べき商品に體現し、従つて其生活費の價值を償却す。(三)手工業者製造者及び商人の勞働は如何なる假定の下に於ても、社會の眞所得を増加せしめずと謂ふべからず。(四)農業家田園勞働者も節約 parsimony を行ふことなくして其社會の眞所得、即土地と勞働との年生産を増加せしむること能はざる點に於ては、手工業者、製造者及び商人と擇ぶところなし。手工業者製造者及び商人にして、若し土地所有者耕作者よりも節約を好む傾向ありとせば、その社會に於て雇傭せらるゝ有用勞働の

量を増加せしめ、従つて其眞所得を増加せしむることも亦一層大なりとせざるべからず。(五)各國住民の所得は、其國の産業が獲得する生活資料の量を以て成るものなるに、商業及び工業を營む國の所得は、常に商工業なき國の所得よりも大なり。一國は商工業に依て、耕作の現状の下に於て、自國の土地が産出し得るよりも多くの生活資料を輸入することを得との五條を以て、フイジオクラートの説の容認し難き理由となせり(vol. II pp. 172-177)。

Adam Smithはフイジオクラートの純收益論を容認せず。然れども勞働に生産的なるものと不生産的なるものとあることは、新に之を認むるに至りしを以て、此點よりしてフイジオクラートと相通するところある結論に到達するは異しむに足らざるなり。既に生産的勞働と不生産的勞働との區別を認むる以上は、少くも純經濟的見地よりすれば、一國の財は、或は其生活資料として、或は其勞働用具として成るべく之を不生産的勞働者よりも生産的勞働者をして、利用せしむることを可とせざるべからず。Smithもフイジオクラートも共に支出の不生産的勞働者を養ふものを、或は浪費、或は奢侈として排斥する點に於て相一致す。

一七五九年に印刷せられ、一八九四年 British Economic Association の寫眞版複製に依て世に知られたる Tableau Economique、若しくは是と略同一なる Ami des Hommes又は Philosophie Rurale中に公にせられたる Tableaux Economiquesの吾人に教ふところは何ぞ。姑らく此表の前提となれる諸條件を承認する時は、吾人の最も理解し易きは、虚飾の奢侈は國を破滅せしむの結論是なり。經濟表は中央に純收益、即ち地主の所得金額を掲げ、先づその一半の農産物購入の爲め左の方生産的階級に支拂はるゝことを點線を以て示し、残る一半の工藝品、又は外國産物の購入の爲め右の方不生産的階級に支拂はるゝことを同じく點線を以て示し、次で生産的階級不生産的階級亦同じく其手中に歸したる金額の一半を農産物の購入に、残る一半を工業品其の他の購入に投ずるものとし、更に斯の如くにして生産的階級及び不生産的階級に流入せる金額は、更に各二等分せられて對岸に流入し、斯くして最後の一錢(dernier denier)に至つて始めて已むものとして、中央に於いて相交錯する二條の點線電形を描きたり。今 Quesnayは生産的階級の支出は、毎回十割の純收益を生ずるものと假定す。故に右點線の屈折毎に産出せらるゝ純收益の合計は、始め地

主の階級より生産的階級に支拂はれたる金額の二倍 $\frac{x}{2} + \frac{x}{4} + \frac{x}{8} + \frac{x}{16} + \dots + \frac{x}{2^n} = x$ の理に由て即ち正に地主の所得額に等しかるべし。然れども此の如く地主の所得に等しき純収益の所に産出せらるゝことを得るは地主、農業家及び商工業者の三階級が各其収入を折半して、一を農産物の購入に、他を工業品の購入に充つるの假定の下に於て然る事のみ。若し社會各階級の工業品を買ふこと漸く多くして、農産物を買ふこと尠きに至らば、純収益は漸く減少せざること能はざるべし。例へば各階級の工業品に對する支出増加して、農産物に對する支出減少すること六分一ならば、純収益も亦減少すること六分一なるべし。而してQuesnayは斯の如く農産物の購入減少して、工業品の購入増加することに對して、虚飾の奢侈(luxe de décoration)なる語を用ゐたり。玆に於て「……過度なる虚飾の奢侈は忽ちにして富有なる國民を破滅せしむることを得」なる結論を生ずるなり。(Tableau Economiqueに示さるゝ數字の意義に就ては、三田學會雜誌第十二卷第十、十一號所載三邊金藏、Tableau Economiqueの解説後學を益すること極めて大なり。)

Quesnay はその Journal le l'agriculture etc. (一七六六年六月)に掲げたる Analyses du

Tableau Economique 附屬の Observations Importantes 中にも虚飾の奢侈の害を説けり。

曰く、所得所有者(地主)の中には甚だ富有にして、價格最高き生産物を消費するものあり。されば彼等が消費する生産物の量は、それよりも低廉なる價格を以て他の諸階級に於て消費せらるゝものに比する時は、比例上遙かに少なし。其所得を支出して、斯る高價を以て買ふ者は、また其購入額に比して比較的遙に少數ならざるべからず。然れども彼等の購入は、品質最良の生産物の價格を維持し、又從つて階梯的に他の生産物の良價を維持して、國土の所得を増進せしむ。然るに地主が不生産的階級に就て行ふ大支出に至つては然らず。而して生活の豪奢(faste de subsistence)と虚飾の奢侈との差違は此に存す。前者の影響は後者の影響の如く恐るゝに足らざるなり。百リヅルを以て青豌豆一リトロンを買ふ者は、代金を農業家に支拂ひ、後者は之を耕作に投じて年々の再生産を増進せしむ。然るに百リヅルを以て金匱紐を買ふ者は、代金を一勞働者に支拂ひ、後者は其一部を外國より原料を購入せんが爲めに投じ、僅かに其生活資料購入の爲めに投せらるゝ自餘の部分のみ生産的階級に歸還するも、此歸還も地主が生産的階級に就て行ふ直接の支出

の如く有利ならず、如何となれば労働者は其生活維持の爲めに高價生産物を買はず、従つて地主の如く高價生産物を産する良地の價值と收入との維持に貢獻することなきを以てなり。購入の爲め外國に流出せる部分は、生産物の相互交易の行はるゝ諸國民に於ては、事實上少くも部分的には然るが如く、若し生産的階級に歸還せば、常に交易運賃を課せられ、而して此事は減少を來たして、完全なる歸還を妨ぐるなりと。(Oeuvres pp. 317-8)

Adam Smith は本誌前號に述べたる如く、國民中生産的労働に服する者と然らざる者との比率は、資本と所得(利潤地代)との比率に由て定まり、資本重を占むる時は勤勉(産業)盛となり、所得重を占むるとき懶惰行はる。故に資本の増減は自ら眞の産業量即ち生産的労働者の數、従つて其國の土地と労働との年生産物の交換價值、即ち其全住民の眞の富と所得とを増減せしむるの傾ありと謂ふものなり。然るに、Smith に從へば、資本は節儉 *parsimony* に依て増加し、浪費と失策とに依りて減少す』(vol. I p. 320) 然るに茲に節儉と謂ひ浪費と謂ふは、畢竟人の出費の生産的労働者を維持せんが爲めに行はるゝと、不生産的労働者を雇傭せんが爲めに行はるゝ

ゝこととに外ならざるなり。即ち曰く「年々貯蓄せらるゝものは、年々費消せらるゝものと同じく、又殆ど之と同時に、規則正しく消費せらる。然れども其は異なる人々に依て消費せらるゝなり。富者の所得中その年々費消する所の部分は、多くの場合怠惰なる賓客及び僕婢の消費する所となり、而して此等の人は其消費の後之を償ふべき何物をも遺すことなし。富者が年々貯蓄する所の部分は、利潤を得んが爲め直ちに資本として用ゐらるゝが故に、同様の方法に於て、又殆ど同時に消費せらるゝも、之を消費する者は、労働者、製造者、手工業者の如き別種の人々にして、其年々の消費の價值を利潤と共に再生産す。彼れの所得は貨幣を以て支拂はるゝものと想像すべし。若し此人にして其全額を費消せんか、其全額が購ふことを得たるべき食物衣服及び住居は、第一種の人々の間に分配せられたるならん。其一部分を貯蓄するときは、其部分は利潤を得んが爲め此人自身か、又は他の或者に依て資本として用ゐらるるを以て、是に由てそれを以て購ひ得べき食物衣服及び住宅は必然後者の爲めに保留せらる。消費は同一なれども、消費者は異なるなりと」(320)。浪費者の爲すところは正に是と相反す。浪費者は其支出を其所得

の範圍内に止めざることに依つて、其資本を蠶食す。……生産的勞働の雇傭に充てらるべき基金を減少せしむることに依て、彼れは、其の左右し得る範圍内に於て、必然その加へられたる客體の價值を増加せしむる勞働の量、及び其結果として全國の土地及び勞働の年産物の價值、即ち其住民の眞の富と所得とを減少せしむ。若し或者の浪費が他の者の儉素に依て償はるゝことなしとせば、浪費者各人の行為は勤勉なる者の麵麩を以て懶者を養ふことに依て、實に其人自身を乞食たらしむるのみならず、又其國を貧困ならしむるの傾あるものなり」と。茲に於てか國富の土地勞働の年産物を以て成ると、金銀を以て成るとを問はず「各浪費者は公共の敵にして、各節儉家は公共の恩人たるが如し」との結論を生ずるなり。而して此結論の基礎は、生産的勞働不生産的勞働の區別に存す。Adam Smithの謂はんと欲するところは、畢竟生産的勞働者に依て生産せられたる國富中、生産的勞働者に復歸する部分益々多くして國富の増進益々速かなるべく、その不生産的階級に依て消費せらるゝ部分益々多くして國富は益々減少すべしと云ふ事に歸着す。而して生産的勞働の何たるやに關する見解の相異を措けば、此は正に Quesnay が Tableau Economique に依て説明せんとしたる所の原理なり。（完）

國際貸借に於ける合衆國の地位

堀江 歸一

從來國際貸借の理論を實際の狀況に適用するに當つて、恰好の對照を爲すものは、英吉利と北米合衆國との兩國であつた。即ち前者は資本輸出國として、年々巨額の利子収益を諸外國から獲得する上に、他の方面に於ても、種々の債權收入を有し、是等を専ら商品の形で内國に回收する爲めに、自ら輸入超過國と爲れる一方に、後者は外國から資本の供給を受け、之に對する利拂を行う其上に、債務の期限の來るに隨つて其償還を要するものゝある爲めに、自ら商品の輸出に依つて、之を決済する必要を生じ、斯くて年來輸出超過國たらざるを得なかつたのである。合衆國は其天然資料の豊富であり、之に多少の人工を施せば、低廉なる費用を以つて、其開發を行ひ、其開掘されたものを利用して、一個の生産物たらしめるを得る、隨つて低